

COVID-19罹患後症状に 補中益気湯が奏効した一例



幕内 安弥子 先生

大阪公立大学医学部附属病院 総合診療科

2011年 大阪市立大学医学部 卒業、東住吉森本病院(臨床研修医1年次)
2012年 大阪市立大学医学部附属病院(臨床研修医2年次)
2013年 大阪市立大学医学部附属病院 総合診療センター(研究医)
2014年 大阪市立大学大学院医学研究科 博士課程(総合医学教育学)
2018年 大阪市立大学医学部附属病院 総合診療センター(研究医)
2022年 医療法人 葛西医院
2023年 PL病院 小児科／大阪公立大学大学院医学研究科 総合医学教育学 病院講師
2024年 大阪公立大学大学院医学研究科 総合医学教育学 講師

はじめに

総合診療科では、発熱や倦怠感といった臓器を特定しにくい症状や、他院で原因不明と判断された患者の診療を行うことが多い。一見、臓器が特定されているようにみえる症状でも、当該臓器の専門診療科から原因不明と判断されるケースもある。そのような様々な症状の背景に気虚が存在することがあり、補剤をはじめとする漢方薬が奏効する症例がある。

多彩な症状を呈するCOVID-19罹患後症状についても、東洋医学的な視点から処方できる漢方製剤は有用な手段の一つである。

症 例

症 例：39歳 男性。

主 訴：呼吸苦。随伴症状に倦怠感がある。

現病歴：障害者施設に勤務し、妊娠中の妻と息子(3歳)の3人暮らしである。

X年4月9日に職場でCOVID-19のクラスターが発生し、自身もCOVID-19に罹患してホテル療養となった。4月22日に隔離が解除され、体調不良はなく、5月6日より仕事を再開した。しかし、5月14日頃、職場で重い物を持ち上げた後から繰り返す呼吸苦が出現し、5月24日に職場で強い呼吸苦が出現したため前医へ救急搬送された。原因不明のため精査目的で5月26日に

当院へ紹介受診となった。

初診時所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：東洋医学的所見から、気虚が前面に現れている状況と考えると補中益気湯 7.5g/日の処方を開始し

図1 症例1 39歳 男性

主 訴

呼吸苦(随伴症状 倦怠感)

所 見

- 身長 175cm、体重 62kg、BMI 20kg/m²、血圧 126/63mmHg、脈拍 81/分、体温 37.0℃、RR 15/分、SpO₂ 99%(室内気)。
- 収縮期雑音(既知の僧帽弁逆流)以外に特記すべき身体所見はなし。
- 会話をしていると徐々に息切れが強くなっていく状態。
- 血液検査・胸部単純CT検査・心臓超音波検査で、呼吸苦の原因なし。

東洋医学的所見

望診：目線はうつむき加減で表情は少し堅い。目力がない。

脈候：沈、数脈なし。

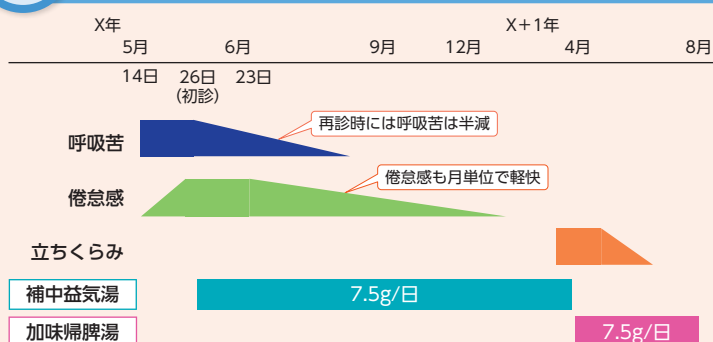
舌候：淡紅色、歯痕なし、舌下静脈怒張なし。

腹候：腹力3/5、腹直筋緊張なし、心下痞硬なし、軽度の両側胸脇苦満あり、臍上悸なし、軽度の両側臍傍圧痛あり、軽度の冷えあり。

処 方

補中益気湯 7.5g/日の処方を開始。

図2 臨床経過



た。約4週間後の再診時には呼吸苦が半減していたため、補中益気湯が有効と判断して継続処方とした。倦怠感は、経過中にワクチン接種のイベントがあったため想定よりも波があり時間もかかったが、月単位で徐々に軽快した。

X+1年春に廃薬が期待されたが、立ちくらみの訴えがあったため加味帰脾湯 7.5g/日に変更し、8月末に廃薬と

した。その後、症状は再燃することなく終診となった。

X年6月～9月は休職していたが、9月からは3回/週の出勤が可能となり、12月以降は通常勤務を継続している。

考察

COVID-19罹患後症状は多彩であり、その病態は未だ解明されていない。標準的な治療は確立されておらず、対症療法が中心である¹⁾。

COVID-19罹患後の9症例の報告では、補剤と柴胡剤が多く使用されており、いずれの症例も1～5週で症状の軽快傾向を確認できた²⁾。

補中益気湯は代表的な補剤の一つであり、本症例にも有効であり、経過も過去の報告と同様であった。

本症例は呼吸器症状が主訴であり、鑑別処方として人參養栄湯も挙げられる。咳嗽、不眠、貧血傾向があれば補中益気湯よりも優先されたと考える(図3)。

この点については、2処方の構成生薬を比べると、皮膚の乾燥や冷え、貧血がある場合には人參養栄湯を選択肢として優先すべきと考える(図4)。

まとめ

COVID-19罹患後症状に補中益気湯が奏効した1例を経験した。総合診療科では、原因不明と判断された気虚の患者に対して、代表的な補剤である補中益気湯が有用な場面が多いと考えている。

【参考文献】

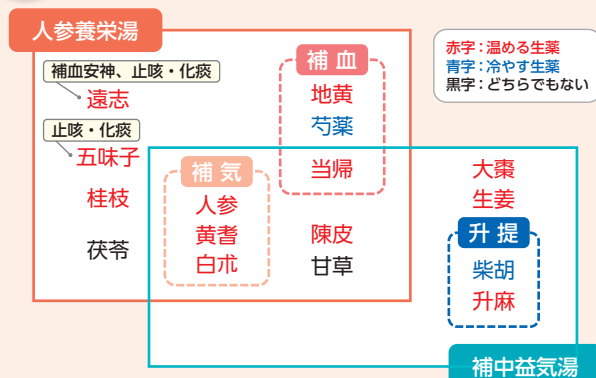
- 1) 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き, 別冊 罹患後症状のマネジメント. <https://www.mhlw.go.jp/content/001159406.pdf>
- 2) 並木隆雄 ほか: 当院の感染症内科漢方外来における COVID-19罹患後症例の傾向～開設初期の受診例から～. 日東医誌 73: 214-219, 2022

図3 考察

- COVID-19罹患後症状は多彩であり、その病態は未だ解明されていない。
- 標準的な治療は確立されておらず、対症療法が中心¹⁾。
- COVID-19罹患後の9症例の報告では、補剤と柴胡剤が多く使用。
→ 1～5週で症状が軽快傾向となった²⁾。
- 補中益気湯は代表的な補剤の一つであり、本症例にも有効であった。
- 鑑別処方として人參養栄湯が挙げられる。
→ 咳嗽・不眠・貧血傾向があれば、補中益気湯より優先される。

1) 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き, 別冊 罹患後症状のマネジメント. <https://www.mhlw.go.jp/content/001159406.pdf>
2) 並木 隆雄 ほか: 日東医誌 73: 214-219, 2022

図4 人參養栄湯の補中益気湯の鑑別



人參養栄湯は、補中益気湯に補血作用が加わった方剤。
体力低下、疲労倦怠に加え、皮膚乾燥や冷え症、貧血症状があるものに用いる。

参考: 安井廣迪監修, 臨床応用漢方処方ガイド

Discussion

木村: 呼吸苦に対して補中益気湯が有効な症例でしたが、処方したポイントを教えてください。

幕内: 元来は元気な方ですが、COVID-19の罹患で気虚を呈したと考えました。会話中に息切れが強くなりますが、咳や痰はなかったため、参考剤の補中益気湯が合うと考えました。

木村: 経過中に立ちくらみが出現して加味帰脾湯に切り替えています、これはなぜですか。

幕内: すでに復職していましたが、再診の際に「また同じことが起こるのではないか」「今後、普通に生活できるのか」と不安を訴えていましたので、精神面を考慮して加味帰脾湯を選択しました。

木村: 臍膀圧痛や冷えがあると、人參養栄湯や十全大補湯も鑑別に挙げられると思いますがいかがですか。

幕内: 当初、血虚症状が顕著ではなかったため、人參養栄湯や十全大補湯は選択はしませんでした。